大山捨松は、五人の女性達と一緒に日本の文化を磨く為、初めて日本人の女性はアメリカに留学した。１８６０年に生まれ、大山捨松は山川咲子として誕生した。アメリカの影響で日本は外国が対応しなければならなくなり、米国の文化に影響化が受けた。明治時代には一番役立つことは日本の女性の教育に対する動向であった。歴史的に、日本では男性が女性より教育を受けられ、いい仕事ができる。日本人の女性は昔から育児や家事しかに中心しなかった。明治時代を背景に、女性も男性と同じように教育を受けることの必要さにつながる動向が行われた。

　アメリカに着く前に、母親が言ったことが言及し、山川咲子は名前を変え、山川捨松に改名した。十一歳の山川捨松は四人の女性たちと命を懸けて、十年約アメリカに留学した。留学が終わる後、日本に戻り、１８８３年に大山巌と結婚した。その後、日本には看護士があまりないので高木兼寛と日本初の看護婦学校を設立した。１９００年にも大山捨松と留学した女性達やアメリカ人の親友と女子英學塾を設置した。

　残念ながら、大山捨松は５７歳で、スペイン症で亡くなった。大山捨松はアメリカで学んで、日本人の近代化を推進した。彼女の努力のおかげで、日本の女性は男性と学校に行け、同じことを勉強するようになって、日本の社会が性別に関する平等の方向に近づく。現代は、女性はほぼ男性と一緒に学校に行き、専門家になることが出来る。確かに、性差別の効果はまだまだ続いている。例えば、男性はまだ会社や政治に関係ある仕事の一番トップのポジションを独占している。給料のギャップや関係ある新しい動きが必要である。すると、日本にいる女性達は男性がずっと独占した満たされる科学・IT・自動車及び「男っぽい」という仕事に女性が受け入られる。。